

診療最前線

心臓血管外科



心臓血管外科部長  
清水 剛

心臓血管外科では、主に手術によって治療できる心臓血管疾患を扱います。その中で、当院の代表的な疾患をご紹介します。  
**大動脈瘤**

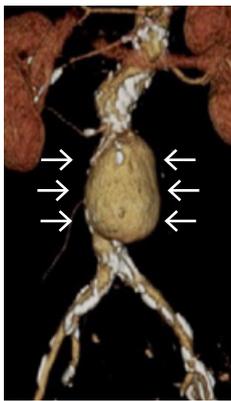


図1 腹部大動脈瘤

大動脈瘤は動脈硬化などが原因で、大動脈（心臓から全身に血液を送り出す動脈で、体の中で最も太い血管）の一部がこぶのように膨らんで太くなった状態のことです。通常、無症状ですが、大きくなると破裂して死亡する危険があります。場所や大きさ、拡大速度などにより治

療の必要性や方法を判断する必要があります。腹部大動脈瘤(図1)の場合、お腹に拍動を感じることがあります。

**閉塞性動脈硬化症**

足の動脈が動脈硬化により徐々に詰まり、血行障害を引き起こします。歩行時の足の痛み、しびれ、冷感などの症状が現れます。進行すると、足に潰瘍ができたり、壊死(図2下)する場合があります。放置すると下肢切断や死亡につながる、怖い病気です。カテーテル治療やバイパス手術が必要となる場合もあります。脈波検査で簡単に検査が可能です。



図2 チアノーゼ(上図)と壊死(下図)

**急性動脈閉塞**

不整脈などで心臓にできた血栓(血の塊)が血液の流れに乗

って移動し、足の血管に詰まります。その結果、急激に血行が悪くなります。急に足が冷たくなり(図3)、色が悪くなり白色や紫色(チアノーゼ、図2上)になり、痛みやしびれが出ます。早く手術をして血栓を除去しないと、下肢を切断しなくてはならない場合があります。

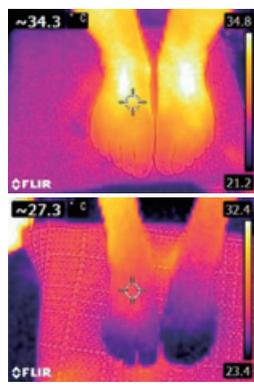


図3 サーモグラフィ 正常(上図)と皮膚温低下(下図)

**深部静脈血栓症**

**(エコノミークラス症候群)**

病気や手術、飛行機内などで長時間同じ姿勢を取り続けていると、下肢の(深部)静脈に血栓ができることがあります。足の血液が心臓に戻らなくなり、



図4 左下肢深部静脈血栓症

足が急に腫れて痛みます(図4)。さらに、この血栓の一部が血流にのって流れて肺の血管に詰まると、死亡することもあります。

**下肢静脈瘤**

下肢静脈瘤は、静脈弁が壊れることで血液が逆流し、下肢の静脈が太くなり蛇行して浮き出てくる病気です。下肢のむくみ、だるさ、こむら返りなどの症状が出ます。進行すると、皮膚炎や潰瘍を発症することもあり、注意が必要です。当院では、体に優しい新しい手術、レーザー治療を中心にご治療をおこなっております(図5)。



図5 下肢静脈瘤の治療前(右図)とレーザー治療後(左図)

これらの症状でお困りの方は心臓血管外科へご相談ください。